

シンポジウム

アルジェリアと脱植民地的想像力： 記憶・表象・再構築

2025年12月13日(土) 13:00-17:00

早稲田大学 早稲田キャンパス8号館3階313教室

第1部 発表1 13:00-14:45

渡邊祥子「農村が生きた《文明化の使命》 ーアルジェリア独立戦争下の集住集落と学校」

Profil: 東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程単位取得退学。博士(学術)。現在、東京大学東洋文化研究所准教授。専門はアルジェリアを中心とするマグリブの植民地史。訳書にギー・ペルヴィエ著『アルジェリア戦争』(白水社、2012年)がある。

大嶋えり子「和解できないフランスーアルジェリアの記憶をめぐる政治」

Profil: 早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程満期退学。博士(政治学)。現在、慶應義塾大学経済学部准教授。主な業績に単著『ピエ・ノワール列伝』(パブリブ、2018年)、『旧植民地を記憶する』(吉田書店、2022年)などがある。

第2部 発表2 & ディスカッション 15:00-17:00

石川清子「ドラクロワ《アルジェの女たち》を見る／書くアジア・ジェバール」

Profil: 静岡文化芸術大学名誉教授。専門は現代フランス文学、フランス語圏文学。著書に『マグレブ／フランス 周縁からの文学』(水声社、2023年)、訳書にタハール・ベン・ジェルーン『不在者の祈り』(国書刊行会、1998年)、アジア・ジェバール『愛、ファンタジア』(みすず書房、2011年)など。

司会 谷 昌親 (早稲田大学)

主催：早稲田大学 総合研究機構 現代フランス研究所

問い合わせ：谷 昌親 (masachika_1622@waseda.jp)